

教育機関との連携による 障がい特性評価実習の取り組み

- 鈴木 百恵 (社会福祉法人太陽の家愛知京都本部 愛知就労支援課主任)
- 福澤 真 (社会福祉法人太陽の家愛知京都本部 愛理就労支援課課長)

1.法人の紹介(中村裕と太陽の家)



創設者
中村裕博士

大分県別府市生まれ
整形外科医として英国のストーク・マンデビル病院に留学しグッドマン博士から医学的リハビリテーションを学び障がい者スポーツと出会う

1964年東京パラリンピックにて日本選手団団長を務め、障がいのある人は仕事を持ち自立することが最も必要であるとの信念に至る

1965年10月

No Charity, but a Chance!「保護より機会を！」

「世に身心（しんしん）障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」という理念の下、**太陽の家を創設**した

1. 法人の紹介(愛知太陽の家設立)



明石会
明石六郎氏

1980年代前半、**蒲郡市**で不織メーカーを
経営していた明石六郎氏は、私財を投じて
身体障害や精神薄弱のある人達の援護・育
成を目的とした施設を建てようと思った

1984年、社会福祉法人**太陽の家(大分県別府市)**の誘
致に成功

日本電装株式会社(現 株式会社デンソー)にも協力を依
頼し太陽の家との共同出資会社「デンソー太陽株式会
社」を含めた“**愛知太陽の家**”が設立された

《自立を支援するための社会福祉事業(定員)》

◎就労継続支援A型(14)・就労移行(6)

◎就労定着支援

◎就労継続支援B型(40)

◎生活介護(20)

◎相談支援事業

◎日中一時支援

◎福祉ホーム(42)

1.法人の紹介(愛知太陽の家)

株式会社デンソー 特例子会社
デンソー太陽株式会社

社会福祉法人 太陽の家
愛知事業部

障がい者が
働きやすい
環境づくり

自動車部品製造

- 生産・品質管理
- 設備・部品管理

- 健康管理
- 生活相談
- 業務受託による教育支援

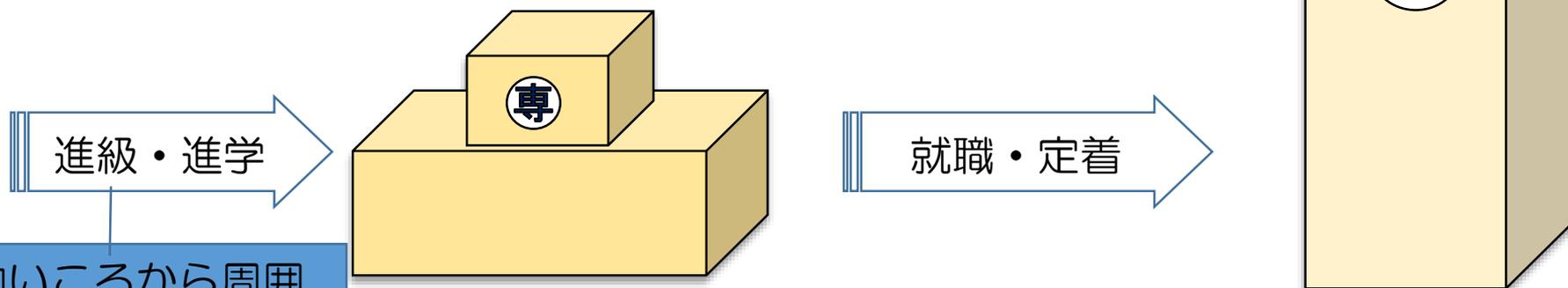
協力・連携



身体…131名(73.2%) 知的…31名(17.3%) 精神…17名(9.5%)

2.障がい特性を見るための実習

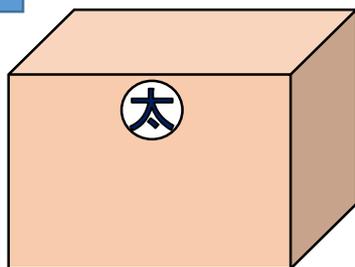
(1)実習を開始した経緯



幼いころから周囲には、ちょっと変わった子として認識されていたが普通校に通っていた。手帳を取得した人やこれからの人もいる。

《先生からの相談》

- 就職が決まらない
- 就職しても長続きしない
- コミュニケーションが取れない
- 理解するのに時間がかかる



障がいが疑われる生徒の特性を評価するための実習を開始

2.障がい特性を見るための実習

(2)働く力と障がい特性の関係



《実習の目的》

働く力を見ようとすることで特性が見えてくる

見えた特性をコントロールして働く能力の
発揮・向上を促進する

進路選択、就労定着に繋げてもらう

2.障がい特性を見るための実習

(3)実習カリキュラムと職業能力

1週間で行うカリキュラム

一週間で見ようとする職業能力

働く能力階層要素	測定しようとする項目 (能力・行動)	事前面談	朝礼・終礼	個W①	個W①	OM	GW①	振返り面談	GW①	座学①	コミュ①	コミュ②	個W②	GW②	座学②	所内・工場 見学質疑	レジリエンス テスト	GW②	スコア
				ボール測定	ボール改善	テスト	ボール検討		ボール発表	4つの指標	自己分析	集団面接	折り鶴	戦略ゲーム	協働とは			戦略ゲーム	
(A) 職業能力	持続力			○	○					○			○		○				5
	工夫力				○	○			○		○	○						○	6
	遂行力			○	○	○					○	○							5
	正確性			○	○	○							○				○		5
(B) 基本的労働習慣	コミュニケーション	○	○	○			○	○	○		○	○		○		○	○	○	13
	主体性	○	○		○		○		○		○	○		○		○	○	○	11
	責任性	○	○				○	○	○				○	○				○	8
	積極性	○	○		○		○	○		○	○	○		○	○				10
(C) 社会生活能力	表現力	○	○	○			○	○	○		○	○				○	○	○	11
	規律性		○		○			○		○			○		○		○		8
	協調性		○				○	○	○		○	○					○	○	9
	ルールの理解	○	○			○		○					○				○		7
		6	8	5	7	4	6	7	6	3	7	7	5	4	3	3	7	6	

15のカリキュラムを行い12の能力を評価し
本人の障がい特性を整理していく

2.障がい特性を見るための実習

(4)実習カリキュラムの工夫



働く能力階層要素	測定	OMテスト	GW①	振返り面談	GW①	座学①	コミュ①	コミュ②	個W②	GW②	座学②	所内・工場見学質疑	レジリエンテスト	GW②	スコア	
			ボールペン検討	ボールペン発表	4つの指標管理すべき	自己分析	集団面接	折り鶴	戦略ゲーム	協働とは	戦略発表					
(A) 職業能力	持続性	○			○				○		○				○	5
	工業的遂行力	○		○		○	○	○							○	6
	正確性	○				○	○	○								5
	正確性	○							○							5
(B) 基本的労働習慣	コミュニケーション		○	○	○	○				○		○	○	○	○	13
	主体性			○	○					○		○	○	○	○	11
	責任性			○	○					○		○	○	○	○	8
	積極性			○	○					○		○	○	○	○	10
(C) 社会生活能力	表現力															11
	規律性															8
	協調性															9
	ルールの理解															7

6. チームで考えをまとめ、一番安全で効率的な作業方法をつくりましょう

全員が納得できるアイデアを選びましょう

- なぜその方法を選んだのか？
- それがすぐに実行できるか？
- 安全に、忘れがなく、スピード感を持ってできるか？
- アイデアを実現するとどうなるか？

などなど

② 戦略会議 (約160分)

グループで絶対に負けない、ババ抜きに勝つ方法を考えよう

他者と関わる場面を出来るだけ多く設定する

3.評価表とフィードバック面談

(1)実習評価表の構成

The worksheet is titled '障がい者 特性評価表 評価表・ワークシート'. It contains several sections:

- 1. 実習で得た知識:** A table with columns for '項目' (Item) and '特長' (Characteristic). It lists various skills and knowledge gained during the internship.
- 2. 実習の感想:** A table with columns for '項目' (Item) and '感想' (Reflection). It provides space for the student's thoughts and feelings about the experience.
- 3. 実習で学んだこと:** A list of specific learning points, such as 'グループワークで役割分担が大切だと感じた' (I realized that role division is important in group work).
- 4. 実習で感じたこと:** A list of observations and feelings, such as '人の意見に流されやすい' (I am easily influenced by others' opinions).

Additional elements include a bar chart titled '実習への期待' (Expectations for the internship) and a diamond-shaped diagram titled '実習への感想' (Reflections on the internship).

1 総合所見として本人の強み、長所と見えた課題を記載

2 5日間の実習で見えた特性を記載
例:人の意見に流されやすい

3 ワークシート:プラスの表現に変換して記入(本人等)
例:人に合わせる事が出来る

4 ワークシート:考えられる管理や支援を記入(本人等)
例:考えや感情を中心に日記をつける

3.評価表とフィードバック面談

(1)実習評価表の構成

5 特性が職業能力のどの要素に士どちらに影響を及ぼすことが多かったかを見える化

6 本人が捉えている就労への準備性を出勤・品質・効率・適応別に見える化

7 *周囲の見え方との差にも着眼してもらおう

5 特性が職業能力のどの要素に士どちらに影響を及ぼすことが多かったかを見える化

6 本人が捉えている就労への準備性を出勤・品質・効率・適応別に見える化

7 *周囲の見え方との差にも着眼してもらおう

5 特性が職業能力のどの要素に士どちらに影響を及ぼすことが多かったかを見える化

6 本人が捉えている就労への準備性を出勤・品質・効率・適応別に見える化

*周囲の見え方との差にも着眼してもらおう

7 実習中、他の実習生の良かったところを“いいね👍”として記録し本人に集まった“いいね👍”を集計し記載

3.評価表とフィードバック面談

(2)フィードバック面談

実習担当職員が学校へ伺い、本人・ご家族・先生へ
評価表を用いて説明を行う



共感

不安

納得

驚き

喜び

戸惑

本人の成長を期待して事実を丁寧に説明する

4.まとめ

この取組みは専門学校の先生より相談を受け2020年より始めたものである

発達障がいをもつ学生が就職後、就労能力を発揮し、活躍・職場定着していくお手伝いが出来ればと思い実施している

未だ試行錯誤を重ねている段階であり、本日ご参加頂いている皆様からの知見や提案を頂きたいと考えている

ご意見等ありましたらお願いします

ご清聴ありがとうございました